

令和5年産 麦栽培講習会資料

令和4年9月30日

J Aたかさき

西部農業事務所普及指導課

1 令和4年産麦の振り返り

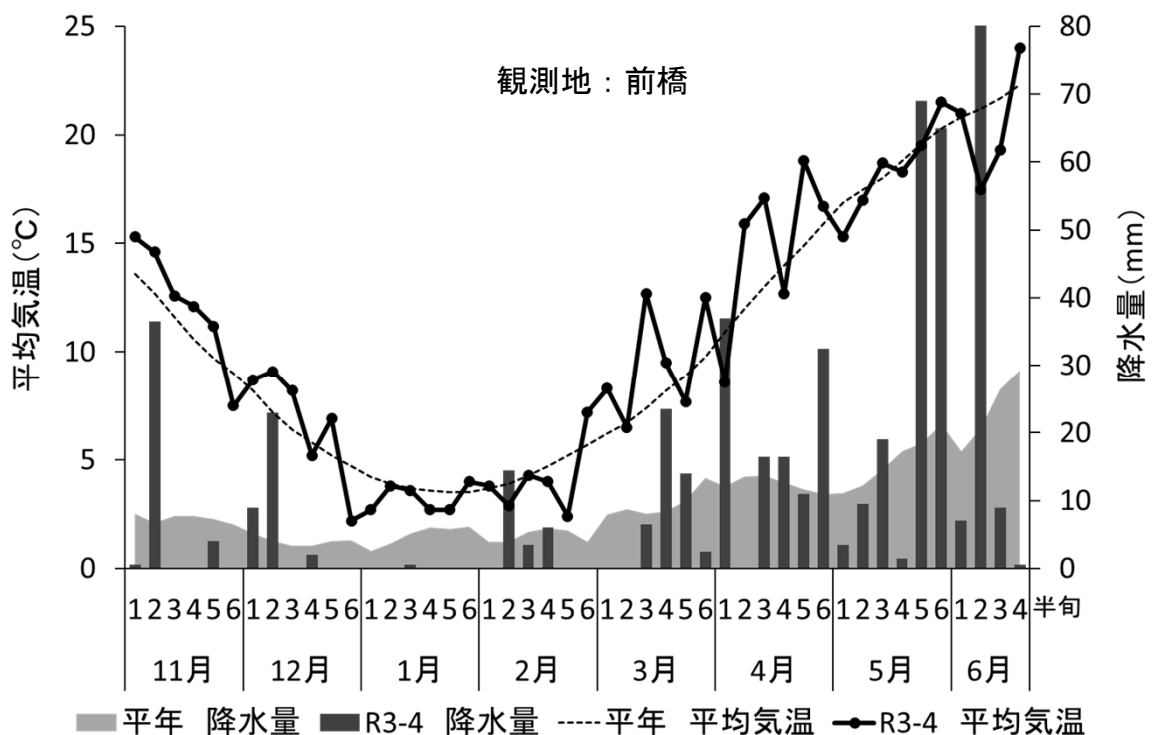
- ・ 登熟期後半の降雨により、退色や粒の形質不良、六条大麦は裂皮もあったため、等級は2等となった。
- ・ 収量が多かったことで、タンパク質含量が低い傾向となった。

品種	等級	ランク	タンパク質%	灰分%	容積重g/L	FN
さとのそら	2	A	9.8 ○	1.54 ○	811 ▲	390 ○
きぬの波☆	2	B	8.1 ▲	1.38 ○	835 ▲	469 ○
ゆめかおり★	2	A	10.0 ▲	1.39 ○	852 ○	410 ○
日本めん用小麦 (やや低・低アミロース品種☆:許容値)		基準値 許容値	9.7%~11.3% 8.5%~12.5% (8.0%~13.0%)	1.60%以下 1.65%以下	840g/L以上 —	300以上 200以上
パン・中華めん用小麦★		基準値 許容値	11.5%~14.0% 10.0%~15.5%	1.75%以下 1.80%以下	833g/L以上 —	300以上 200以上

品種	等級	ランク	細麦率%	白度	容積重g/L	硝子率%
シュンライ	2	A	0.0 ○	47 ○	735 ○	44 ▲
主食用小粒大麦		基準値 許容値	2.2mm篩下に2.0%以下 —	43以上 40以上	690g/L以上	40%以下 50%以下

※基準値を満たす：○ 許容値を満たす：▲

※ランクA:基準値を3つ以上かつ許容値を全て達成、B:基準値を2つ以上かつ許容値を全て達成
C:基準値を1つかつ許容値を全て達成、又は基準値を2つ以上達成するが許容値を達成していない



2 排水対策

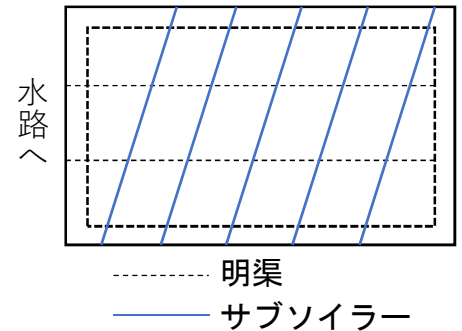
播種後の生育不良を防ぐため、湿害を受けているほ場では排水対策を行う。

(1) 深耕による心土破砕

サブソイラー等で固い作土層を破砕し、排水性を良くして土壌を軟らかくする。

(2) 明渠による排水

ほ場の周囲及びほ場内5~10m毎に30cm程度の溝をつくり、排水路につなげてほ場の水を排水しやすいように明渠を設置する。



3 枯れ熟れの要因と対策

枯れ熟れの主な要因	対策	効果
高温乾燥による枯死	深耕の実施 麦踏みの実施	根域の拡大 分げつの促進、根張りの促進
湿害による根の傷み、 生育不良	排水対策	湿害対策、根の活性維持
肥切れによる養分不足	適期追肥の実施 雑草対策	植物体の活力維持、増収、タンパク質向上、養分競合の防止

4 土づくり

(1) 深耕

・ 作土の深さは15cm以上になるよう耕耘し、作土深を確保する。

(2) 有機物の施用

・ 土壌の種類及び土性に依じて、堆きゅう肥、稲わら等の有機物を施用して地力を高める。

(3) 土壌改良剤の施用（土壌診断の実施）

・ 麦類は**酸性土壌によって根の生長を阻害される**ため、土壌酸度の改善を行う。

pHの目標値 : 6.0~6.5

酸度矯正 : 苦土石灰 又は ケイカル 100~150kg/10a

リン酸の補給 : ようりん 60kg/10a

5 肥培管理

- ・ ほ場の地力や品種特性に応じて適正な量を施用する。
- ・ 追肥ができない場合は、基肥一発肥料を施用する。
- ・ 追肥は、茎立ち前にむら直しを兼ねて実施する。
- ・ 「ゆめかおり」は、**必ず開花期頃**に窒素成分で2~4kg/10a程度の追肥を行う。
- ・ 「シュンライ」は、タンパク質含量が高まると硝子率も高まるため、茎立ち期以降は追肥しない。また、畑作では水田作よりもタンパク質含量が高くなりやすいため、注意する。

窒素施肥量の目安（単位：kg/10a）

品種	さとのそら	きぬの波	ゆめかおり	シュンライ
基肥窒素量	8~10	6~8	6~7	6~9
追肥窒素量	2~3	4~6	2~4	2~3

6 播種

(1) 播種時期

◎適期播種が収量に大きく影響する。

- ・早播き—幼穂の凍霜害や縞萎縮病、枯れ熟れの発生を助長する。
また、雑草も発生しやすくなる。
- ・遅播き—有効分げつが減少、出穂・成熟が遅れ減収する。

※共同で赤かび病の防除を行う場合は、適期防除できるように、地域内で播種時期を検討してください。

播種時期	11月中旬～下旬
------	----------

(2) 種子消毒

- ・小麦なまぐさ黒穂病、大麦斑葉病等種子伝染病害の防除を行う。
※小麦なまぐさ黒穂病は、特に畑作で出やすくなるので注意する。
- ・播種後にハト・スズメ等の食害がある場合は、忌避剤を用いる。

作物名	薬剤名	適用病害虫
小麦 大麦	ベンレートTコート	条斑病、なまぐさ黒穂病、 裸黒穂病、斑葉病
小麦	キヒゲンR-2フロアブル	なまぐさ黒穂病、ヤシロビムシ
麦類		キジ、スズメ、ハト

(3) 播種量

- ・厚播きすると過繁茂、軟弱徒長の原因になり、倒伏の危険が増し、減収や品質低下につながる。
- ・湿害を受けやすいほ場や、播き遅れの場合は播種量を増やす。
適期から、10日遅れ—20%、20日遅れ—30%程度増量する。

密条播 (ドリル播) での 播種量の基準	品種	播種量 (kg/10a)
	さとのそら、きぬの波	6～8
	ゆめかおり	7～8
	シュンライ	8～10

7 麦踏み

麦踏みの効果—分げつを促進、耐寒性や耐倒伏性を高める。

生育にあわせ、3～4回実施する。

※茎立ち期(3月中旬)以降の麦踏みは、茎を折ったり、幼穂を傷つけるので避ける

麦踏み時期	回数	備考
本葉3葉期 (12月中旬)	1回	麦が小さい頃は軽い麦踏みとする
1～2月	2、3回	暖冬の年や出芽数が不足、過繁茂の時は1～2回多く行う

8 難防除雑草対策

(1) スズメノテッポウ (引用：福岡県、(国)農業・食品産業技術総合研究機構)

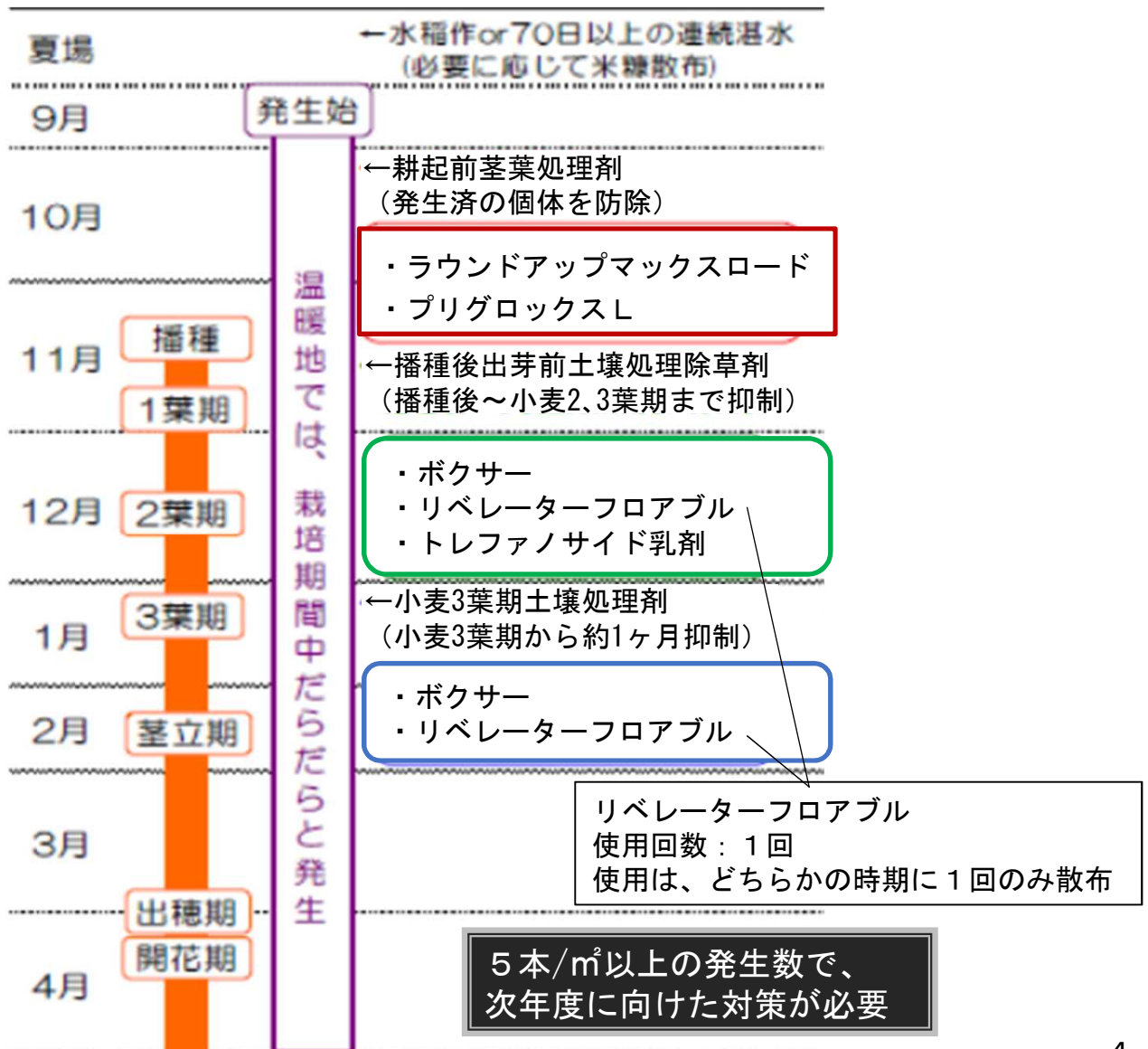
- ・可能な範囲で晩播する。
- ・適度に土壤水分がある状態で散布する。→ 午前 播種、午後 除草剤散布
- ・散布時に土壤が乾いていれば、水量を多くする。
- ・抵抗性雑草に効く除草剤を使用する。

ボクサー、ムギレンジャー乳剤、リベレーターG・フロアブル

- ・播種前に繁茂している場合、または、播種後出芽前に発生がある場合は、非選択性除草剤を散布する。
- ・スズメノテッポウ2葉期頃までに‘ボクサー’で追加防除する。

農薬名	作物名	適用雑草	使用時期	使用回数
ボクサー	小麦	一年生雑草	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～発生始期)	2回以内
	大麦			
	小麦		麦2～4葉期 (雑草発生前～発生始期)	

(2) ネズミムギ (引用：静岡県、(国)農業・食品産業技術総合研究機構)



9 雑草防除

- ・播種直後速やかに土壌処理剤を散布する。
- ・土壌処理剤は、同一薬剤を連用すると抵抗性雑草の発生を助長するので、ローテーションして使用する（下記表のとおり）。
- ・除草剤の効果を高めるため、碎土は細かく丁寧に、播種後はローラーで鎮圧
- ・覆土は2～3cmとし薬害を抑える。

農薬名	成分名：作用機構分類 (HRAC)
ボクサー	プロスルホカルブ:15
クリアターン乳剤	ベンチオカーブ:15、ペンディメタリン:3、リニューロン:5
リベレーターフロアブル	ジフルフェニカン:12、フルフェナセット:15
ガレース乳剤・G	ジフルフェニカン:12、トリフルラリン:3
トレファノサイド乳剤	トリフルラリン:3

- ・生育期に雑草が繁茂する場合は、茎葉処理剤による防除を行う。

発生している雑草	茎葉処理剤 例
スズメノテッポウ、一年生広葉雑草	ハーモニー75DF水和剤 (抵抗性スズメノテッポウに注意)
一年生広葉雑草、ヤエムグラ	エコパートフロアブル
一年生雑草(イ科を除く)、カラスノエンドウ	バサグラン液剤

10 赤かび病防除 引き続き防除の実施をお願いします

- ・毒素デオキシニバレノール（かび毒）の検出が**基準値1.0ppm**を超えてはいけない。
- ・発生が多くなる条件
 - 春先暖かい
 - 出穂期前後の気温が高く、降雨が多い場合
 - 凍霜害により不稔が発生する場合

- ・農薬散布適期

小 麦：開花始期～盛期（出穂7～10日後）

六条大麦：穂ぞろい期

※1回目の散布後、降雨が多く、多発条件が続く場合は、1回目から7～10日後に2回目を実施

薬剤名	作物名	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	小麦	収穫14日前まで	出穂期以降は2回以内
	麦類	収穫30日前まで	出穂期以降は1回以内
ワークアップフロアブル	麦類	収穫7日前まで	3回以内

※本資料記載の農薬は、令和4年9月7日現在登録のあるものです。

※農薬使用時はラベルをよく確認し、基準を守り、ドリフトに注意して作業しましょう。

公道での農機による交通事故の要因と対策



事故発生の要因

公道での農機の交通事故は大きく分けて**単独事故**と他の車両からの**追突事故**の**2種類**があります。

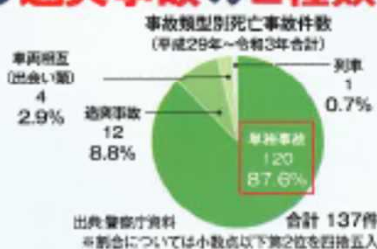
単独事故

1.用水路等への転落

運転操作ミスや道路環境が悪いことにより、田畑や用水路等へ転落。

2.傾斜地での横転等

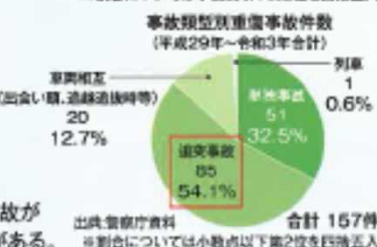
農機は通常の車に比べ重心位置が高いため傾斜地等でバランスを崩して横転。傾斜地等で自然に動き始めた農機にひかれる事故。



追突事故

夜間等における追突

夜間は後続車から農機が発見されにくく、追突事故が起る。昼間のトンネル内でも追突事故の事例がある。



事故を防止するには

事故防止の対策

公道での農機による交通事故対策の**3つのポイント!**対策と準備が重大な事故を防止します。

ポイント1 確実な運転操作とブレーキ連結の確認

農機による死亡事故は、ハンドルやブレーキ操作ミスによる単独事故が多いため、道路状況等に応じた確実な運転を行いましょう。道路走行時は必ず左右のブレーキを連結しましょう。農作業前後に道路上を走行する際は、ブレーキ連結をしていないと、ブレーキを踏んだときに急旋回して転落、横転する事故につながる恐れがあります。

ポイント2 安全キャブ・フレームの装着とシートベルト・ヘルメットの着用

救命効果の高い安全キャブやフレームが付いているトラクターを利用しましょう(安全フレームは倒さずに使いましょう)。農機による交通事故においても、シートベルト着用の有無により死傷状況が大きく異なります。トラクター等の農機運転中は必ずシートベルトを着用しましょう。また、ヘルメットの着用にも努めましょう。※車種によっては取り付けられないものもあります。



ポイント3 ランプ類や低速車マーク等の取り付け

一般車両との接触や追突を防ぐためには周囲に気づいてもらうことが大切です。「低速車マーク」や「反射板」を設置しましょう。また、作業機を付けて公道を走行するためには、基本的にランプ類の増設等が必要です。

